

Case 1

古民家複合施設「はかり屋」から 熱い“つくり手”の コミュニティが育まれた！



はかり屋創設人
あま 氏
畔上 順平さん

「はかり屋」創設メンバーであり、運営を行っている一般社団法人越谷テロワールの代表。越谷の“まちづくり”のためのさまざまなプロジェクトに携わる。越谷歴 45 年。



アクセサリー作家
アキセイ 裕子さん

国内外での活動を経て、地元越谷でアクセサリーブランド「Sherie amies」を立ち上げる。作品は「naya」にて販売中。



リラクゼーションサロンオーナー
加藤 大造さん

リラクゼーションサロン「癒しの空間 yunai」のオーナー。市内では店舗目の開店先を探していたところ、縁あって「はかり屋」で開店することになった。



曼荼羅セラピスト
mie さん

「naya」で曼荼羅アートの展示やワークショップを開催。人々の心が休まるような作品づくりを心がけている。

畔上「はかり屋」が誕生したのは2018年。私は当初から関わっているけれど、オープンしてから今まで、いろんな移り変わりがありました。「はかり屋」のファンも多いですね。飯山さんも当初からのメンバーですね。

飯山 そうですね。私は海外をめぐった後、三重県の伊勢で過ごし、そこで地元を大切にすることと出会ったんです。それから私の地元・越谷を見つめなおしたい！と帰郷し、アクセサリーブランド「Sherie amies」を立ち上げました。その頃、「旧日光街道・越谷宿を考える会」(*1)のお手伝いをしていた縁や、当時アルバイトをしていた「楽の蔵」(*2)というフレンチレストランのオーナーシェフからお話があり、「はかり屋」とのつながりができました。このチームは……個性派ぞろい(笑)！元々はたくさんの人の中で活動するのが苦手だったんですけど、ここで活動していたらチームプレイが得意になりました。今は、「naya」(*3)でアクセサリーの販売をしています。

加藤 私も「楽の蔵」がきっかけですね。運営しているリラクゼーションサロンの2店舗目をオープンしようとしていたときに、「はかり屋」を紹介してもらいました。1店舗目とは違うコンセプトにしたいと考えていたけど、まさか古民家でお店を開くことになるとは(笑)。でも、初めて「はかり屋」の建物を見学したときに「ここだ！」と思って、あとはトントン拍子。ちなみに、お店のロゴは飯山さんにつくってもらいました。

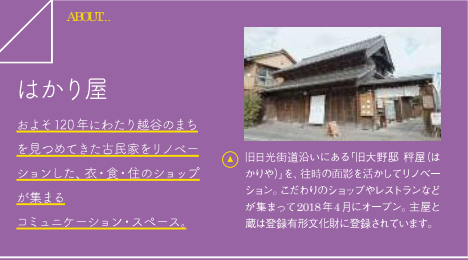
mie あ、私もきっかけは同じです(笑)。曼荼羅アートの展示場所として、「楽の蔵」2階のギャラリーを使わせていただいていたんですけど、そこで「はかり屋」オープンの情報を知り

ました。今は「naya」で曼荼羅アートのワークショップを開催しています。受講者さんには、「はかり屋」のファンも多いんですよ。

畔上「楽の蔵」なくて、ここにいるメンバーはつながっていない、ということですね。「はかり屋」の立ち上げには、旧所有者から購入した新たにオーナーとなって改修費を負担してくれたボラスグループさんや地元のみさんの力添えが本当に大きかったと思います……。そこから、人が人を呼ぶ循環がうまれていった。

「地元を見つめなおしたい」
そう思って出会ったのが
「はかり屋」です！

「はかり屋」に集うのは、
越谷を拠点に活動するアーティストや
クリエイターのみなさん。
彼らはどのようにしてここで出会い、
越谷でのつながりを深めているのでしょうか？



はかり屋
およそ120年にわたり越谷のまちを見つめてきた古民家をリノベーションした、衣・食・住のショップが集まるコミュニケーション・スペース。

旧日光街道沿いにある「旧大野郎 釋屋(はかりや)」を、往時の面影を活かしてリノベーション。こだわりのショップやレストランなどが集まって2018年4月にオープン。主屋と蔵は登録有形文化財に登録されています。



打楽器奏者
みちえ さん

「naya」にて音楽教室「フェルマータ」を開催中。小さなお子さんをもつ子育てファミリー向けに木琴のレッスンを行う。



Creative Sheppa の発起人
こへへ さん

世界一周の旅を経て、日本文化の良さをもっと伝えたいということで帰国。「Creative Sheppa」の代表として、越谷の伝統工芸品「都うちわ」の技術を守る活動をしている。



デザイナー
花房 茂さん

デザイン会社「ハナブサデザイン」代表として、「籠染灯籠」や「だるまアート」等、越谷の伝統的手芸工芸品と掛け合わせたアートプロジェクトを数多く手がける。越谷歴 35 年。

みちえ 確かにそうですね。私は、「CAFFE03」で木琴の演奏をしていたんですが、そこで誘ってもらい、「naya」で打楽器教室を開くことに。教室には「はかり屋」の近所の方も来てくれていて、子育て真っ最中のみなさんとの交流もなされました。「はかり屋」はものづくりに関わる人たちだけでなく、いろんな暮らし方を共有する場所だあって思っています。

飯山 私も子育て中の同世代の方とのつながりは広がりましたね！一緒に「naya」で活動している方もいます。

こへへ「はかり屋」は常に新しい何かが起きている面白い場所ですね。僕が地元を見つめなおしたきっかけは、「KOSHIGAYAZINE」(P22-25 参照)という WEBメディアです。当時「はかり屋」にあった「TSURUTO」というお店の記事をみて、「越谷にこんなすばらしいところがあるんだ！」と思って。その記事が縁で、気づいたら「KOSHIGAYAZINE」の副編集長になっていました(笑)。副編集長だった頃は、カメラ片手に越谷のいろんな人やお店を取材しました。そのときの流れで、今は「Creative Sheppa」を立ち上げて、越谷の伝統工芸品「都うちわ」の技術を守る活動をしています。

花房 私は、「籠染灯籠」(*4)や、「越谷だるま」(*5)の張り子のフォルムを活かした「だるまアート」などをデザインしています。また、「籠染阿波濠紙」(*6)の手ぬぐいのデザインを手がけることもあります。そうした活動でつながった旧日光街道沿いの商店のみなさんが店先に「籠染灯籠」を飾ってくれたのは嬉しかったですね。それが縁で「はかり屋」の店舗さんで

みんなの「技」を活かして、
越谷のつながりが
深まる場になるといい

「だるまアート」を取り扱ってもらい、他の作家さんたちとともに「越谷だるま芸術祭」を行ったことも。「越谷ならではのもの」をつくるという理念に共感してくれる人たちとの交流が広がっていますね。

畔上「はかり屋」がみんなの「技」を活かした越谷のつながりが深まる場としていきたいですね。ものづくりやライフスタイルを起点に、いろんな拡がりうまれていて、とても嬉しいです！「はかり屋」から生まれたつながりを越谷市全体に拡げていきたいですね。みなさん、これからもよろしくおねがいします！

「はかり屋」チームのワークショップが完成しました！

Next page

*1 旧日光街道・越谷宿を考える会
旧日光街道の越谷宿に興味の強い地元有志が中心となり、旧日光街道のまちづくりを推進している。

*2 楽の蔵
市内北越谷にある古民家フレンチレストラン「楽の蔵」のオーナーシェフ。現在は「はかり屋」の改修工事の現場で作業中。

*3 naya (ナヤ)
「はかり屋」にある「ナヤ」モールのクリエーターグループ。現在は「はかり屋」の改修工事の現場で作業中。

*4 籠染灯籠
「籠染」とは籠染などの生地の型染技法のこと。旧日光街道で籠染灯籠を制作していた市内の旧町屋職人さんと「はかり屋」でデザインコラボして制作。経緯は「naya」プロジェクト「The Wards 003」の副編集長(2015年8月)

*5 越谷だるま
色が白く、鼻がやや丸い上品な顔立ちが特徴。その顔が、非日常感ある「だるま」の顔が楽しく、面白いと愛用する女性が多かったため愛用されている。川田人治や荒巻宗秋など伝説を中心に川田人治由来されている。

*6 南越谷阿波濠紙
毎年1月に開催される。越谷が誇る夏の伝統的行事「阿波濠紙」の文化を継承するために、阿波濠紙もまた注目されている。阿波濠紙もまた注目されている。阿波濠紙もまた注目されている。

古民家複合施設「はかり屋」に集うまちづくりのプレイヤー

はかり屋に入居中!

